

第50期包装管理士講座を迎えて

公益社団法人 日本包装技術協会

専務理事 古屋 一

平成27年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

年が明けると間もなく、次年度の包装管理士講座のパンフレットが出来上がり、受講者の募集が始まります。この包装管理士講座、次年度は記念すべき“第50回包装管理士講座”として開講されます。

日本包装技術協会は昭和38年（1963年）に創立されました。設立当時、まず目指したものは、①包装産業の基盤確立、②包装人材の育成、③包装技術の革新、という協会事業目標の3本柱に対して、どのような内容を持った事業を構築し、実施していくかでした。そして、関係者が2年の歳月をかけてようやくまとめ上げられた事業が、東京国際包装展（東京パック）と包装管理士講座で、両事業は共に、昭和41年度（1966年）に始まりました。その後の協会の象徴ともなる大きな柱として成長していったことは、包装関係者の知るところかと思えます。

今から半世紀も前の昭和41年にスタートした第1回包装管理士講座は、当時としては異例の共通コースの後、下記の通り商業包装コースと工業包装コースに分かれており、すでにスタートから現在の講座の基礎となっていました。

〈商・工業包装コース共通科目〉 流通経済学、デザイン総論、物的流通管理、包装工学、他

〈工業包装コース・前期&後期〉 木箱、段ボール、倉庫、貨物試験演習、製図演習、他

〈商業包装コース・前期&後期〉 パッケージデザイン、紙・紙器、印刷、製図演習、他

当時、各々のコースに「製図演習」という科目を設けたことも大きな特徴で、演習を千葉大学の教授が担当していました。現在の「設計」に当たるものなのでしょうか。受講者は30名で、25名が合格し第一期包装管理士の称号を授与されたとの記録が残っています。

そして、49年後の昨期は、417名という歴代最多の包装管理士が誕生しました。これで包装管理士は49年間で12,241名となっています。

50回目の開催を目前にし、この半世紀という長い歴史を顧みます時、包装教育の構築と包装人材の育成に情熱を燃やした多くの方々の熱意と心をひしひしと感じます。この大きな節目に当たり、あらためて諸先輩が積み重ねてきた経験と功績を踏まえながら、包装分野における次世代人材の育成とはどうあるべきか、またそのためにどのような教育が必要なのか、包装分野のみならず、あらゆる関連分野と協力して考え、取り組んでゆこうと思っています。

あらためまして管理士会の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げますと共に、本年が皆様方にとりまして良い年でありますようお願い申し上げます。

《INDEX》

本部報告	2
2014年包装界・10大ニュース	3
支部だより	4



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.118

ipp
news

ipp news
2015年1月25日発行
編集人／荒井拓哉
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

会員の皆様へ 年頭のご挨拶

日本包装管理士会 会長 井上伸也

新年明けましておめでとうございます。

昨年は期待された経済の復活が、4月1日からの消費税増税の影響からか停滞気味となり、年末押し詰まっの衆議院解散・総選挙という流れで一年を終えてしまいました。新しい年に期待したいと思います。

IPPでは2016年の創立50周年に向けて本格的な準備が始まり、第1段階の「50周年キャラクター募集」には多数の方から力作を応募していただきました。選考委員会で選定された「IPP50周年キャラクター」は新年早々にippニュース（今号）や（公社）日本包装技術協会の機関誌「包装技術」1月号で発表されましたのでご覧ください。キャラクター募集に応募していただいた皆様、本当にありがとうございました。キャラクターは決まりましたが、このキャラクターにはまだ愛称がありません。ただいま募集中です。親しみやすい愛称の応募をお願いします。

キャラクター委員会以外にも、記念誌、記念セミナー、記念パーティーの委員会が準備作業を進めています。

記念誌には、日本包装管理士会創立以来続けられている「包装界10大ニュース選定」の記録を中心に、時代背景の振り返りなどを行いたいと考えています。この10大ニュース選定の事業に関しては、日報ビジネス(株)発行の新聞「包装タイムス」新年号（1月1日号）に特集記事として掲載していただいております。ぜひご一読ください。10大ニュースでは昨年久しぶりに輸送用包装資材から段ボールの軽量化が話題として取り上げられました。包装の小型化、軽量化や物流システムの変革などの条件整備によるものとも思われます。2015年には経済活動が活発化し、物流にも好影響のあることを期待したいと思います。

2015年の干支は「乙未（きのとひつじ）」で、一般的に動物は「羊」が当てられています。羊からはおとなしく優しい動物がイメージされますが、乙未はまだ我慢の時のような言葉で説明されていました。日本が温帯気候の美しい四季の国であることを願い、本年が会員の皆様、ご家族にとって幸多き一年となるよう願っております。ご健勝にお過ごし下さい。



「2015年包装界合同新年会」会場にて IPPのメンバー

2014年包装界・10大ニュース

日本包装管理士会（IPP）選定

1.活発化する食品ロス削減への取組み

先進国での食品廃棄物の大量排出が問題視されているが、個別企業の取組みで改善するには難しい課題のため、食品業界では商習慣を検討するワーキングチームを結成し関係省庁（内閣府、消費者庁、農水省、経産省、環境省）と連携を図るとともに、共通課題の解決のために組織された民間企業の取組みとも連携し、相乗的に活動している。食品容器包装には、賞味期限を延長するバリア機能が要求されるようになり、まだ食べられるのに廃棄される食品の削減に向けた取組みが拡大している。食品メーカーでは一定期間経過後の品質を科学的に再検査し、包装素材の技術革新等で賞味期限を延ばす企業が増えてきている。具体的には即席麺や一部のレトルトカレー、調味料等で賞味期限延長の見直しが始まっている。

2.段ボールの軽量化進む

段ボールの平均坪量（質量） g/m^2 は、最新の統計によると2012年には $618g/m^2$ と、前年から $7g/m^2$ 軽くなっている。デルタフルーツやTM段、5号段などBフルーツとEフルーツとの中間的な薄い段ボールの市場投入が相次いでおり、段ボールの主要使用先である食品分野での流通単位の小形化と相まって注目を集めている。すでに欧州では小型のシェルフレディパッケージ用に広まっているが、日本においても同様な動きがみられている。

3.液体紙容器の環境配慮型開発が進む

レンガ型紙パック飲料容器もアルミレスに切り替わり、牛乳パックと同じリサイクルルートにのる紙容器が登場した。また、100%植物由来の原料を使用した紙パックも開発され、製造から廃棄までのCO₂排出量も14%削減可能になる等、液体紙容器の環境配慮型開発が進んでいる。

4.デジタルオンデマンド印刷による新しいマーケティング

新しいパッケージラベルの展開として、個人名をラベルに印刷することで購買意欲につなげるという試みが国内市場で始まった。飲料メーカーでは、わずか5週で1億本を突破するなど、消費者に好評であった。用意されたネームボトルは250種類以上で、多種ラベルが投入された背景にはデジタルオンデマンド印刷の技術革新がある。ラベルだけではなく、ボトルキャップの天面にもアルファベット1文字が印刷されており、可変情報の印刷を生かした新しいマーケティングは今後も広がると予想される。

5.テトラトップ容器の国内乳製品への導入が進む

乳業メーカーが相次いで、乳製品へのテトラトップ容器の導入を進めた。テトラトップ容器は、広口のスクリュウキャップを有しており、従来のゲーブルトップ容器に比べて、再栓できる上に注ぎやすく、付加価値の高い容器として評価されている。

6.微細発泡PETボトルが飲料用容器に採用

微細発泡技術による光の反射・散乱作用を利用し、光沢のある意匠性と遮光性を両立させたボトルが飲料用容器として採用された。リサイクル性も有しており、今後の更なる展開が期待される。

7.コンビニコーヒーの拡大

コンビニのテイクアウトコーヒーの展開が加速している。アイス、ホット用でそれぞれのカップ容器も素材が違い、導入する店舗数の拡大は包装産業にも影響を及ぼしている。自分で淹れるコーヒーが人気で、それに使用する紙カップ、プラカップ等の生産が間に合わない状態が続いた。

8.JIS S 0021 包装 —アクセシブルデザイン— 一般要求事項の改正

アクセシブルデザイン包装の推進を後押しする「JIS-S-0021高齢者・障害者配慮設計指針—包装・容器」は2000年に制定され、日本発（日本・中国・韓国共同提案）の国際規格としてISOに提案され検討が進んでいたが、2011年7月 ISO11156として制定された。これに合わせ、国際規格との整合性をとるためにJIS-S-0021が大幅に改正された。今回の改正では、年齢、知覚、認識能力、身体機能、言語および文化の差異を超えて、誰もが内容を適切に認識し、使用できるように包装の設計、評価を行うための指針と、製品の識別・購入・使用から包装分野、廃棄まで、さまざまなライフサイクルの場面における配慮事項を対象範囲としている。

9.4月消費税増税後、GDPは2四半期連続マイナス成長。再増税は1年半延期。

消費税増税（5%→8%）に伴う駆け込み需要が発生した2月末から3月末にかけて容器包装企業にも特需があった。政府は増税による景気へのマイナス効果を打ち消すために予め5兆円の補正予算を組んでいたが、駆け込み需要の反動を含めた4-6月期のGDP成長率はマイナス7.3%、7-9月期はマイナス1.6%と予想外の2期連続マイナスとなった。一部に景気回復の兆しがあるものの、この景気の足踏みを受け、政府与党などは再増税（8%→10%）を2017年4月へ延期した。景気の回復が期待されている。

10.「TOKYO PACK 2014」 盛況裏に開催

東京国際包装展が2014年10月7日～10日、東京ビッグサイトで開催された。

基本コンセプトは「ここで見つかる、包装のチカラ」。684社・団体、2,490小間の規模で、食品、医薬品、クリーン関連の展示が増加、海外出展も146社・団体と前回は大きく上回った。4日間で17万8,698人の来場者が訪れ、盛況裏に閉幕した。IPPでもJPI関連包装4団体と共同して集中展示企画「包装の過去そして未来」の出展に協力するとともに、IPP小間を出展し「使用後に小さくでき・廃棄しやすい包装」について展示し、好評を得た。

北海道支部だより ●●●

北海道支部長 酒井 幸彦 (36期)

新年明けましておめでとうございます。

IPP会員の皆様には元気でお過ごしのことと思います。

北海道は12月上旬より寒気が居座り寒い日々が続いております。札幌市内も11月とは別世界のような一面雪景色となっております。冬到来です。

昨年、農産物は割と天候に恵まれ、米、野菜共まずまずの収穫だったと思います。又、水産関係はサンマ漁が久々の豊漁となり港は活気を呈し、段ボールを含む包装資材も影響を大いに享受しましたが、ホタテ関連が円安の影響により輸出が増えた為内販向けの資材が低調に推移し、鮭も前半は好調でしたが最終的には昨年並みに終わり、魚種により格差がついた一年でした。

2015年は包装管理士会会員の皆様並びに所属する企業がよい年になりますよう御祈念申し上げます。

【包装管理士合格証書授与式・レポート発表会】

11月13日13時からニューオータニイン札幌にて第49期包装管理士合格証書授与式並びに合格者によるレポート発表会を開催致しました。今回、札幌会場の受講者は15名で全員合格との事で内藤北海道支部長より一人一人ひとりに合格証書が授与され包装管理士としての第一歩を踏み出しました。その後合格者によるレポート

発表では、包装のプロらしく堂々と40名弱の聴取者に熱弁を振るっていました。

【包装懇話会開催】

授与式後に芝浦工業大学大学院理工学研究科教授の安齋正博博士による包装懇話会を開催、テーマは「3Dプリンターで変わるものづくりの未来?～積層造形の基礎と応用」を講演していただき、ものづくりのための形状、形成加工に完璧な手法は存在しなく、種々の手法の中から現状で最適なものを選んで組み合わせていくのがものづくりの工程である、3Dプリンターの適用範囲はさらにひろがるだろうとの事。

聴取者は3Dプリンターへ大いなる関心を持って熱心に耳を傾けていました。

【懇親会開催】

懇話会の後は同ホテル内の別会場にて新包装管理士を囲んで懇親会を実施、新包装管理士全員に今後の抱負を語って貰い、更に参加者全員によるスピーチ等、和やかな雰囲気にて、またIPP入会勧誘も同時に行い何とか減少傾向に歯止めをかけるべく行い無事終了致しました。

東北支部だより ●●●

東北支部 副支部長 斎藤 昇 (13期)

新包装管理士合格者を囲み新旧管理士の集い開催

平成26年10月29日(水)包装管理士講座49期生の包装論文発表会・合格証書授与式・新包装管理士を囲む会を開催しました。

発表会は6テーマの発表がありました。

- 1) 木質インテリアドア引戸商品の包装改善
YKK AP 登美 博明氏
- 2) 照明器具固定緩衝材の段種変更によるコストダウンと環境配慮・物流効率の改善
㈱トーモク 松本 晃氏
- 3) ちくわ用外装箱の包装改善
レンゴー(株) 渡邊 祐次氏
- 4) 工業分野におけるユニバーサルデザインの提案
㈱高速 入間川 圭氏
- 5) 製氷包装用袋の代替提案
福助工業(株) 立道 秀章氏

- 6) 鮭ギフト用真空個包装の包装改善
㈱高速 高橋 誠一氏



49期生発表会

P4から続く→

発表会の後、鈴木IPP東北支部長より講評と記念品授与が行われました。

合格証書授与式はJPI本部より古屋専務理事をお迎えして行われました。



鈴木支部長の講評



JPI古屋専務理事より合格証書授与

その後、場所を移動して、49期生を囲む会を開催しました。

JPI東北の山岸事務局長の乾杯で始まり、先輩管理士も参加して、1時間強の短い時間でしたが有意義な

時間をすごしました。



49期生合格者を囲む会



新旧管理士が歓談中

支部の予定

平成27年1月15日（木）

●新年記念講演会 午後4時～5時30分

「ブランド価値を創造するパッケージデザイン
ブラビス・インターナショナル フミ・ササダ氏

●東北包装界新年名刺交換会 午後5時30分～
仙台市内 江陽グランドホテル

西日本支部だより ●●●

西日本支部事務局長 小田 博章（17期）

平成26年11月7日（金）IPシティホテル福岡にて、第49期包装管理士合格証書授与式、包装技術研究・事例発表会が開催され無事終了いたしました。

西日本支部では、33名が合格され、今後のますますのご活躍が期待されます。当日は、たくさんの方々にご出席いただき、今期合格者を祝福し、大いに意見交換ができ、大変有意義なひと時が過ごせました。

早いもので、西日本支部は創立38年目を迎えます。38という数字は仏教では、新たな気持ちで取り組みを始める、区切りの数だそうです。そこで、今回はお釈迦様が書いた幸福論の「般若心経」から、新たな気持ちで取り組むにあたっての、7つの実践力を、西日本支部の悩み・難局を解決する来期の指針としたいと思います。

1. 選択・決断する力

「どうしたいか」で行動する

2. 集中・目標達成する力

志は「大きく」かつ「絞り込む」

3. 難局を拓く力

苦境でも感謝する強さを磨く

4. 共に成長する力

「もちつもたれつ」と「甘え」は違う

5. 広く知恵を磨く力

「常識」から自由になる

6. 無限に向上する力

短所は克服でなく、カバーする

7. 幸福を確実につかむ力

「最高の今」のために努力する

これからの西日本支部の行事予定としては、JPI西日本支部と協賛して1月に新年賀詞交換会・講演会、2月に見学会を計画しています。（詳細は別途会員にご連絡いたします）

関西支部だより ●●●

関西支部 細田 基則 (13期)

関西支部は「広く会員の皆さまに交流の場を提供する」という活動テーマのもと、様々な活動が続けています。

本年度も8月号で紹介しました女性だけの包装研究会「W会」との交流セミナー(7/15)を初めとして、2回のミニセミナーと夏秋2回の見学会&セミナーを開催しました。

10月24日には第49期包装管理士合格証書授与式に桃川支部長が来賓として出席し、87名の方々に祝辞を述べると共に包装管理士会への加盟を呼びかけましたところ、既に若干名の方が入会されました。新しいメンバーを加えて関西包装管理士会を活性化させていきたいと考えています。ご支援よろしくお祈いします。

◆ミニセミナーの開催

◇第21回 9月25日

「包装素材としての“紙”の高機能化のとりくみ
～バリエーションを有する紙の開発～」

講師：日本製紙(株)

3機能用紙部技術調査役 茶谷明信氏

「PTP包装誤飲事故を根絶する新規錠剤用包装形態の開発～ESOP(イソップ)～」

講師：(株)モリモト医薬

代表取締役社長 盛本修司氏



講師を囲んで(手前左：盛本講師 手前右：茶谷講師)

◇第22回 12月18日

「レンゴーが提案する日本版SRP(セルフフレディパッケージング)による流通革命」

講師：レンゴー(株)

SPデザインセンター主任 榎本匡宏氏

「共押出多層フィルム～マルチトロン～」

講師：タマポリ(株)

フィルム事業部課長 中村均氏



講師を囲んで

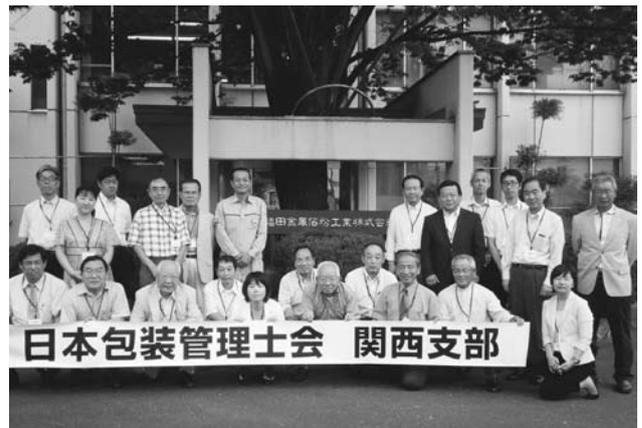
◆見学会&セミナーの開催

◇夏期見学会&セミナー 7月30日

①見学会 福田金属箔粉工業(株)

②セミナー「海外での陸上輸送環境について」

講師：山九(株)技術開発部 江口正修氏



福田金属箔粉工業見学会



見学会後の交流会

◇秋期見学会&セミナー 11月6日

①見学会 ATC(株)おおさかATCグリーンエコプラザ

②セミナー1

「エフピコが考える食品包装とリサイクル」

講師：エフピコ(株) 環境対策室顧問 松尾和則氏
 ③セミナー 2「食品企画開発トレンド2014」
 講師：凸版印刷(株) 関西TIC本部
 マーケティング部課長 秦弘信氏



セミナーの様子



参加者集合

◆第49期包装管理士講座合格証書授与式に協賛
 ◇10月24日 IPP関西支部副賞授与



KPI賞を受賞された皆さまと



交流会場にて（手前右：桃川支部長）

関東支部だより ●●●

IPP写真研究会活動報告

IPP写真研究会 会長 林 晴夫

昨年10月9日IPP写真研究会第11回写真展が横浜山手234番館で開催されました。会員により全47作品が展示されました。回を重ねるごとに作品の完成度は向上しているように思われます。12時には飾りつけが完了し、初日80名の観覧客をお迎えしました。写真展は台風19号の来襲のため、13日に終了しました。5日間の観覧客は700名にのぼり、外人客もあり、作品について熱心に質問される方や、IPPとはどんな組織ですか？との質問もあり大変活気のある写真展になりました。

10月18日は川越祭り撮影会を開催しました。祭りの起源は1648年（慶長元年）に遡る伝統ある御祭りです。各町の21台の山車が巡行します。迫力ある被写体に出合い、3流派の囃子方の乗った山車を中心にシャッターを切りました。16時に撮影会を中断しビールを飲みながら情報交換会を実施しました。18時から宵闇の御祭り撮影会に再度繰り出しました。

12月6日は池袋サンシャイン60の59階JOE'S SHANGHAIで忘年会を行い11人が参加しました。

また、第11回写真展から1人1枚選んだベストワン写真展が、12月12日～1月16日まで、JPI本部のロビーで開催されました。2月14日アサヒビール本部ビルのゲストルームで新年会とミニ写真展が開催されます。



ビールを飲みながら情報交換会

関東支部だより ●●●

第7回・第8回
「スキルアップセミナー」を開催

事務局

第7回・第8回「スキルアップセミナー」を、(株)文昌堂10F貸会議室において開催しました。

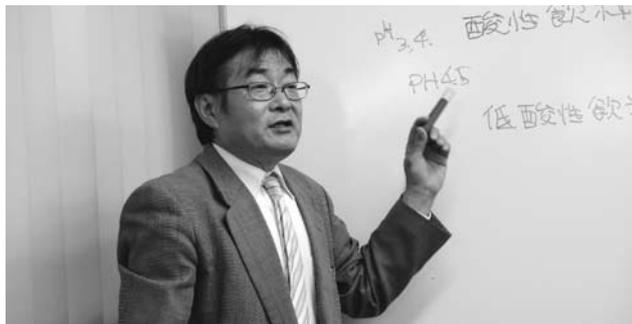
スキルアップセミナーには継続的に参加する会員が多く、会員のスキルアップのためのセミナーとして着実に定着してきました。

「第7回スキルアップセミナー」は、2014年9月19日に開催、14名が参加しました。テーマは「ガラスびんの基礎と、近年のガラスびん動向及びEUのガラスびん事情」で、日本ガラスびん協会 専務理事 吉永茂樹氏にご登壇いただきました。セミナー内容は、ガラスびんの基礎、近年のガラスびんの動向などに加えて、ガラスびんの主要国であるEUのガラスびん事情や情報を、データや画像を用いて解説していただきました。



講師の吉永茂樹氏

「第8回スキルアップセミナー」は2014年11月14日に開催、18名が参加しました。テーマは、「金属容器(缶)の製造方法とその材料について」で、東洋製罐株式会社 テクニカル本部の横尾徹也氏にご登壇いただきました。セミナー内容は、缶の製造方法や缶用材料(スチール、アルミニウム及び副材料)の基礎をデータや画像・動画を用いて解説していただきました。講演後の質問も活発で、参加者からは普段学ぶ機会の少ない「缶」について良く理解できたという声がありました。



講師の横尾徹也氏

第49期包装管理士合格証書授与式
(東京会場)

事務局

平成26年10月24日(金)、秋葉原UDXにおいて第49期包装管理士 東京会場合格証書授与式が行われました。東京会場では、200名の新包装管理士が誕生しました。授与式では、公益社団法人日本包装技術協会 古屋専務理事から代表者に合格証書が手渡され、四国化工機株式会社の廣田成克さんをはじめとする優秀合格者が表彰されました。その後、日本包装技術協会 古屋一専務理事の主催者挨拶、日本包装管理士会井上伸也会長の来賓祝辞があり、山田孝志関東支部長による乾杯の音頭によって懇親会が始まりました。新包装管理士に包装管理士会理事のメンバーが加わり、会は大いに盛り上がりました。



表彰を受ける金賞の廣田成克さん

関東支部 秋季見学会を開催

関東支部副支部長 古平 篤 (25期)

関東支部は2014年10月29日(水)に見学会を開催しました。今回は23名が参加しました。12時50分、南栗橋駅に集合し、タクシーで最初の見学先であるキューピー株式会社五霞工場に向かいました。工場の玄関はハロウィーンのデコレーションで飾られていました。工場内に入り、ミーティングルームでDVDを用いた概要説明を聞いた後で、工業見学を行いました。工場内は非常に綺麗で照明設備が床に映るほどであり、クリーンルームで製造していました。今回は、ドレッシング、マヨネーズ、割卵工場の見学およびサラダの試食がありました。

マヨネーズは多層ブロー容器で中身の酸化を防ぐ為、窒素で空気を置換していました。

また、原料として使用する酢やブローボトルも社内にて製造しているとの事でした。その後、タクシー

で日本工業大学内にある工業技術博物館に向かいました。



キュービー五霞工場見学会

工業技術博物館は明治から昭和にかけて産業に寄与した歴史的価値のある工作機械等を動態保存、展示してあり展示品は機械、機器類、大小合わせて400点以上ありました。旋盤、ボール盤、フライス盤、放電加工機、射出成形機等があり、参加者は興味をもって、見学していました。



日本工業大学内の工業技術博物館

工業技術博物館見学会後は、東武動物公園駅まで歩き、駅構内の居酒屋、魚民で情報交換会を行い、20時すぎに散会となりました。

今回は新しい人が多く参加しました。

関東支部 インドネシア視察旅行実施

関東支部副支部長 古平 篤 (25期)

関東支部の9人のメンバーが、2014年11月20日～24日(延泊組は25日)まで、インドネシアのバリ島とジャカルタを視察しました。

今回はジャカルタのThe JAKARUTA INTERNATIONAL EXPO KEMAYORANで開催していた、PLASTICS & RUBBER INDONESIA 2014の見学および市場調査を行いました。11月20日午前、羽田空港



PLASTICS & RUBBER INDONESIA 2014

に集合しガルーダ・インドネシア航空で約8時間かけて、バリ島に到着しました。その後、ホテルに直行しました。

11月21日は展示会を視察する為に、バリ島から首都・ジャカルタまで2時間、エア・アジア・インドネシアを利用して航空機で飛びました。ジャカルタからは展示会場まで渋滞の中、約2時間かけてタクシーで移動しました。展示会の内容は、射出成形機械、印刷機械、インフレーション成形機、容器類、バリア性がある袋等の展示がありました。特に、射出成形機械が各メーカーから、出展されていました。また、展示会場の中にある、インドネシア包装連盟 (Indonesian Packaging Federation) を表敬訪問しました。展示会を視察した後で、タクシーで展示会場と空港の間にあ



展示会場内の様子

P9から続く→

る、カルフルに立ち寄り、スーパーマーケットの市場調査とお土産を購入して、空港まで向かいました。しかし、帰りも渋滞で空港まで2時間以上もかかりました。その後、ジャカルタからバリ島まで航空機で飛び、バリ島の空港からタクシーでホテルに戻りました。

11月22日は、パロンダンス、ケチャックダンス等の民族舞踊と、キンタマーニ高原、棚田等を観光しました。

11月23日はホテル近くのレギャン街と海岸を散策し、6名は夜の航空機で、帰路につきました。残りの3名は11月24日、タマンアユン寺院、ジャティルイ（棚田）、タナロット寺院を観光し、夜の航空機で帰路に着きました。



バリ島でパロンダンスを見学

中部支部だより ●●●

中部支部長 岡部 智 (27期)

新包装管理士を祝う「第49期包装管理士交流懇親会」

寒波が北海道や日本海側の各地を襲っており、寒い、寒い本格的な冬がやってまいりました。これを執筆している現在、街頭には衆議院選挙における各候補の最後のお願いのマイクの声が響いています。この2年の「アベノミクス」の成果を問う選挙となっており、自民党の圧勝が予想されております。

さて、平成26年10月17日（金）メルパルク名古屋「羽衣の間」で第49期包装管理士合格証書授与式を開催しました。今期の受講者は輸送包装46名、生活者包装24名の合計70名であり、そのうち合格者は前期受講者を含め66名でした。授与式の後、懇親会が第49期包装



第49期包装管理士合格証書授与式

管理士とIPP中部支部会員合わせて88名が一同に会して開催されました。私のあいさつの後、来賓として来て頂いた産業技術センターの伊藤センター長の祝辞に

続いて、JPI越野常務理事の乾杯の後、新旧包装管理士が和気あいあいの中で交流懇親会が進み、大変楽しい会となりました。



和気あいあいの交流懇親会

第54回包装技術研究大会中部大会

平成27年2月17日（火）、愛知県産業労働センターでの開催を予定しています。この大会は今期で54回を迎えるJPI中部支部の伝統ある研究大会です。とくに、包装管理士講座における優秀論文の発表の場として開催しています。また、今回特別講演として三井住友海上火災保険株式会社の内山亮様のご講演を予定しています。

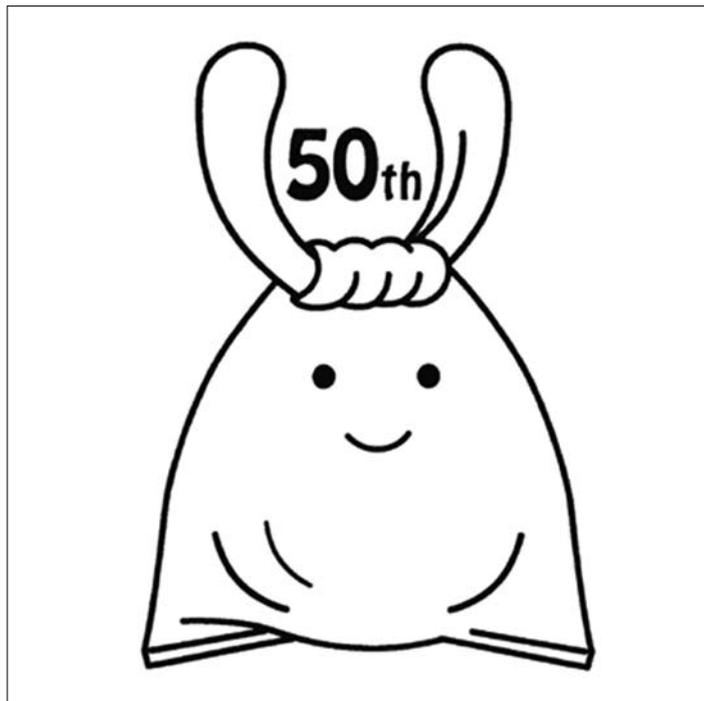
日本包装管理士会 創立50周年記念

キャラクター決定のお知らせ

日本包装管理士会創立50周年記念キャラクター募集に際しましては、多数の皆様から力作をご応募いただきました。誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

会員の皆様による投票により、7点の候補に絞った後に、会長・副会長・支部長・本部理事・50周年委員による厳正な審査により、創立50周年記念キャラクターを決定いたしました。

●決定作品



キャラクターの愛称募集

上図、創立50周年記念キャラクターの愛称を募集します。
IPPキャラクターにふさわしい愛称を奮ってご応募ください。

〈募集要項〉

- (1) 愛称の言語は問いません。
- (2) 応募は1名、3点以内とします。
- (3) 会員番号・氏名・住所・連絡先を明記の上、応募してください。

採用賞金：1万円

〈その他〉

- (1) 著作権：IPPに帰属することを応募条件とします。
- (2) 審査：一般会員により投票していただき、3点に絞った後に、会長・副会長・支部長・本部理事・50周年委員により、最終審査を行います。

●応募締切：2015年1月30日（金） 事務局必着

●応募先：日本包装管理士会 本部事務局

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内

TEL：03-3543-9250 FAX：03-3543-8970

E-mail：ipp@pk9.so-net.ne.jp

● 編集後記 ●

ippニュース118号をお届けします。今回もいろいろな情報で充実しております。まず、10大ニュースにより昨年を振り返りますと、昨年包装に関係した、いろいろなことがあった事がわかります。

次に、昨年はTOKYO PACKの年であり、IPPブースで商品展示を行い、説明員を担当した事を思い出します。

また、IPPは2016年に創立50周年を迎えます。現在、いろいろな準備に入っており、まずは本誌にも載せてありますが、50周年記念のキャラクターデザインが決定しました。続いて、キャラクターの名前を募集しておりますので、皆さん宜しくお願い致します。式典会場の選定、記念誌編集、記念式典の講師の選定は引き続き行っています。

各支部では見学会、研究会が活発に行われています。

関東支部では、毎年海外視察を行っていますが、今回はインドネシアの視察を行いました。ジャカルタで行われていたプラスチック&ラバー展の視察を行い、インドネシア包装連盟のブースを表敬訪問してきました。

包装管理士講座は第49期が終了し417名が合格しました。合格された方はIPPへの入会をお勧めします。

このippニュースは年2回の発行ですが、各支部ではニュースに載らなくてもいろいろな行事が行われています。皆さんは年2回のニュースを受け取るだけでなく、各支部が企画する行事に積極的に参加される事をお勧めいたします。

最後に活動の感想、ご意見なども事務局へご連絡ください。

古平 篤 (25期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
http://www.ippj.net/

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0004	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南4-1-2-17 日通ビル2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒530-6691	大阪市北区中之島6丁目2-27 中之島センタービル28F 日本包装技術協会内	☎ : 06-6444-6479 fax : 06-6444-6450
■西日本支部	〒800-0233	福岡県北九州市小倉南区朽網西1丁目6番3号 ワイルド化成株式会社内	☎ : 093-474-1211 fax : 093-474-1113

----- Copy & FAX 用切取線 -----

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ						
氏名	会員番号	番	平成	年	月	日届
会社	社名					
	所属					
	住所 〒					
	TEL					FAX
自宅	住所 〒					
	TEL					FAX
	E-mail					